令和５年産　**秋田米産地情報**【第１号：令和５年６月１５日】

ＪＡ全農あきた米穀部

あきたからの米レター

田植えは平年並みに終了

適切な水管理で、有効茎の確保を！

斑点米カメムシ類の防除も今からが勝負！

１．県内の気象概況と作業進捗状況

４月は天候に恵まれ、播種作業は県南地区で３日早く始まったものの、終期は全県で平年並みとなりました。耕起作業は中央・県南地区で始期・盛期ともに平年より３～５日早まりましたが、終期は播種作業同様、全県で平年並みとなりました。

５月は周期的に天候が変わり、上旬は降水量が多く、大雨となったところもありました。中旬は気温が平年よりも高くなり、日照時間もかなり多くなりました。一方、下旬は再び大雨となり、平均気温も低くなりました。そのため、田植え作業はほぼ平年並みに進みました。

表１　県内の農作業進捗状況（県　水田総合利用課より提供）

		始期			盛期			終期		
		2023	平年	差	2023	平年	差	2023	平年	差
播種作業	県北	4/11	4/13	－２	4/18	4/18	0	4/26	4/26	0
	中央	4/9	4/11	－２	4/17	4/18	－１	4/28	4/28	0
	県南	4/17	4/20	**－３**	4/23	4/25	－２	4/30	4/30	0
	全県	4/11	4/11	0	4/21	4/22	－１	4/30	4/30	0
耕起作業	県北	4/21	4/22	－１	5/1	5/2	－１	5/9	5/10	－１
	中央	4/13	4/17	**－４**	4/25	4/28	**－３**	5/6	5/8	－２
	県南	4/25	4/30	**－５**	5/3	5/6	**－３**	5/13	5/14	－１
	全県	4/16	4/20	**－４**	4/30	5/3	**－３**	5/11	5/12	－１
田植え作業	県北	5/12	5/14	－２	5/20	5/22	－２	5/29	5/29	0
	中央	5/9	5/10	－１	5/18	5/19	－１	5/29	5/29	0
	県南	5/16	5/17	－１	5/23	5/24	－１	5/30	5/31	－１
	全県	5/11	5/12	－１	5/21	5/23	－２	5/30	5/30	0

表 2　秋田市の気象統計値（6/2 秋田地方気象台発表資料より抜粋）

		気温（℃）			降水量（mm）			日照時間（h）		
		平均	平年差	平年との比較	降水量	平年比（%）	平年との比較	積算時間	平年比（%）	平年との比較
4月	上旬	10.1	+2.5	かなり高い	55.5	171	多い	66.2	125	多い
	中旬	11.7	+2.1	高い	29.0	77	平年並	44.9	77	少ない
	下旬	11.9	+0.3	平年並	56.0	140	多い	86.3	150	かなり多い
	月	11.2	+1.6	高い	140.0	127	多い	197.4	117	多い
5月	上旬	12.8	−0.8	低い	122.0	272	かなり多い	73.6	128	多い
	中旬	16.4	+1.6	高い	13.0	31	少ない	81.6	147	かなり多い
	下旬	16.7	−0.2	平年並	54.5	142	多い	75.9	106	平年並
	月	15.4	+0.2	平年並	189.5	152	多い	231.1	125	かなり多い

＜今年の育苗期間中の特徴＞

① ４月の平均気温が平年並み～やや高かった一方で、最高・最低気温が平年より低い日が周期的にあった。

② ４月下旬～５月上旬は、日照時間が平年より多かった。

③ ５月上～中旬は日照時間が多かった一方で、最低気温が平年を大きく下回った。

以上により、外気温は低いがハウス内の温度は上がりやすい状態が続き、ハウスの温度管理が非常に難しい育苗期間となりました。ハウスの開閉作業が遅れたところでは苗の徒長や障害、病害の発生を助長する要因となりました。

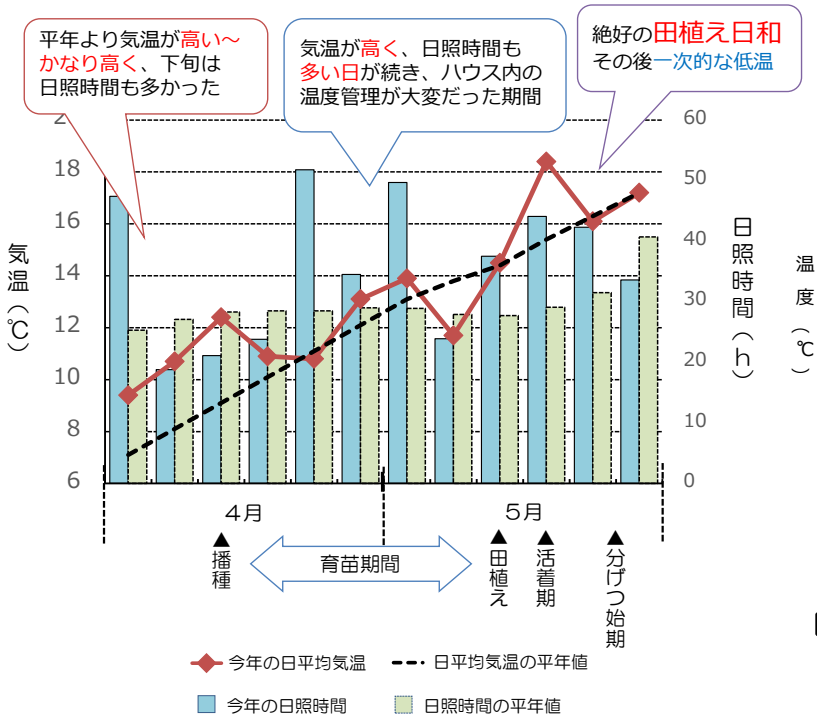


図 1　秋田市の４～５月の日平均気温の推移と日照時間

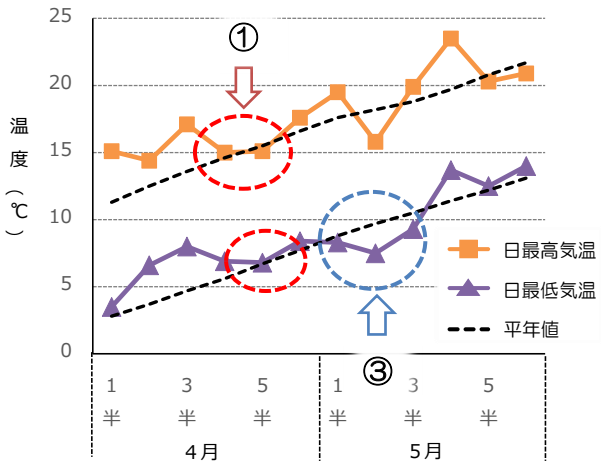


図 2　４月～５月の最高・最低気温の推移

２．田植え後の生育状況

今年は６月１１日に梅雨入りが発表されました。平年より４日早く、昨年より５日遅い梅雨入りです。

田植え後の稲の生育は、地域によって差があり、中央地区は平年並みの生育となっていますが、県北で茎数が平年比 **78%**、県南で平年比 **74%**と平年よりかなり少なくなっています（表４）。

５月中旬に田植え盛期を迎えた中央地区では、上図１にあるとおり、日平均気温が平年より高い日が続いたこともあり、**概ね順調に移植苗の活着が進んだ**と思われます。

中央地区に位置する、秋田農試のせん根苗調査でも順調な活着状況となっています（表３）。

※せん根苗調査：苗から伸びている根を全て切り落としたものを移植し、数日後に抜取り、新しい根が何本伸びたか、またその長さはどのくらいか等を調査し、移植した苗が順調に活着したかを調査すること。

表 ３　せん根苗による発根調査結果

（5/31 発行　作況ニュース第２号より抜粋）

調査項目	標植（５月15日植）				
	年次			前年	平年
	R5	R4	平年	比・差*	比・差*
				%	%
平均気温（℃）	16.7	15.6	15.5	+1.1*	+1.2*
平均発根数（本）：A	16.7	13.1	13.6	128	123
平均発根長（cm）：B	6.4	6.6	5.3	97	120
最長根長（cm）	10.5	11.9	9.9	88	106
発根量（cm・本）：A×B	107	86.1	73.6	124	145
発根乾物重（g）：C	0.6	0.4	0.3	141	178
地上部乾物重（g）：D	2.0	1.3	1.3	152	156
根重割合（%）：C/D×100	28.9	31.2	24.4	-2.3*	+4.5*

注1：標植の平年値はH12～R4の平均
注2：地上部乾物重は30個体の重さ

しかし、県北は田植え盛期頃の５月下旬に**一時的な低温期間**があったため、**活着と初期生育が停滞**しました。県南は他地域より田植えが遅く、活着時期にあたる５月下旬～６月上旬に最高気温の低い期間があり、**水温や地温の上昇が緩慢だった**ことが想定され、**初期生育が遅れ**ました。

表 ４　定点調査結果（6/9、各地域振興局調査）

品種	地区	草丈			茎数			葉数		
		2023	前年比	平年比	2023	前年比	平年比	2023	前年比	平年差
		(cm)	(%)	(%)	本／㎡	(%)	(%)	(葉)		
あきたこまち	県北	26.1	102	97	137	112	78	6.1	−0.1	−0.2
	中央	26.4	106	104	150	124	96	6.4	0.1	0.1
	県南	24.0	105	99	95	101	74	5.5	0.1	−0.3
	全県	**25.2**	**104**	**99**	**120**	**110**	**80**	**5.9**	**0.0**	**−0.2**
(参考)ひとめぼれ	中央	27.7	98	100	264	117	111	6.7	0.1	0.1

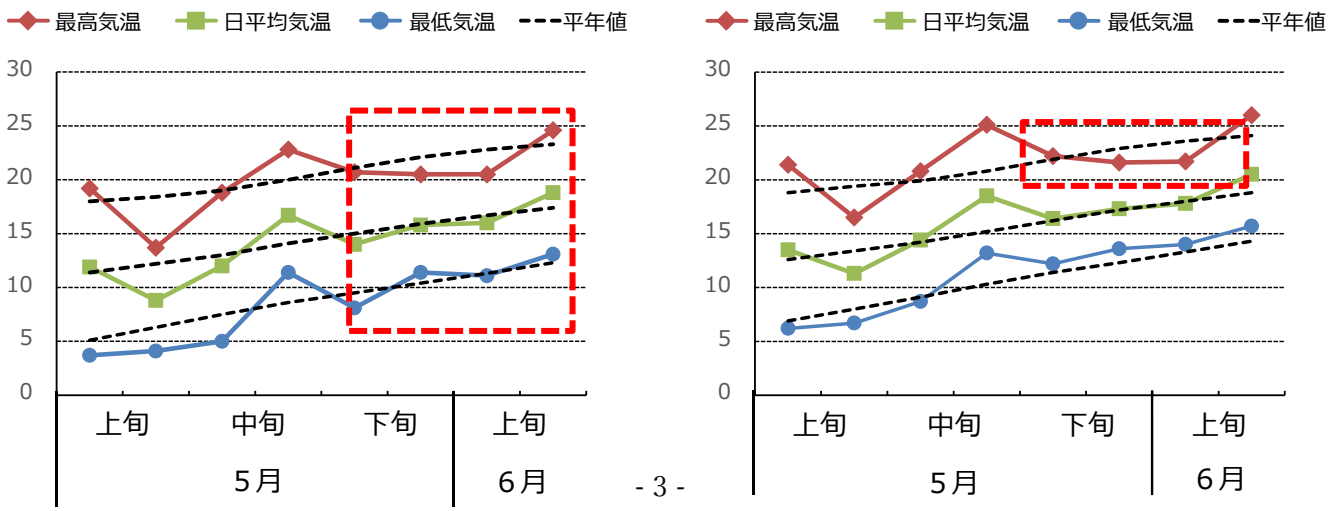


図 ３　田植え前後の気温の推移（左図：県北、右図：県南）

６月以降の気温は平年より高い～かなり高く推移したものの、日照時間は平年並～少なくなっています。

現在は稲の分げつ期～有効茎決定期にあたり、分げつを促進する期間となります。

生育が遅れぎみの圃場も、水管理をしっかりと行い、**茎数確保**に努めましょう！

分げつは取れば取るだけ良いというわけではなく、**強勢分げつ**を主体に確保することが重要になります。

中苗だと、主茎＋第３～６節１次分げつ

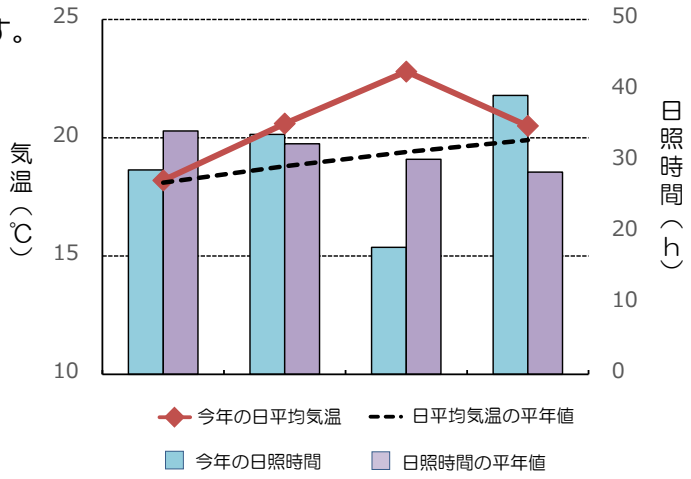


図 ４　６月の半旬ごとの日平均気温の推移と日照時間

稲のＮ葉が伸びる時、その３枚下の葉から新しい分げつが発生します（図６参照）。

＜例＞７葉目が伸び始めた時、４葉目（７葉－３＝４葉）の葉の付け根から新しい分げつが伸びる

中苗のあきたこまちで活着が順調であれば、**第３節１次分げつ**から発生します。田植え後に低温があたり、活着が遅れてしまった圃場では、第３節１次分げつが発生できていないかもしれません。

分げつの発生は、気温より水温の影響を強く受け、次のような環境下で発生が旺盛になります。

① 日平均水温が**２３～２５℃**

② 昼夜の**水温較差が大きい**

引き続き、適切な水管理で分げつを促進しましょう。

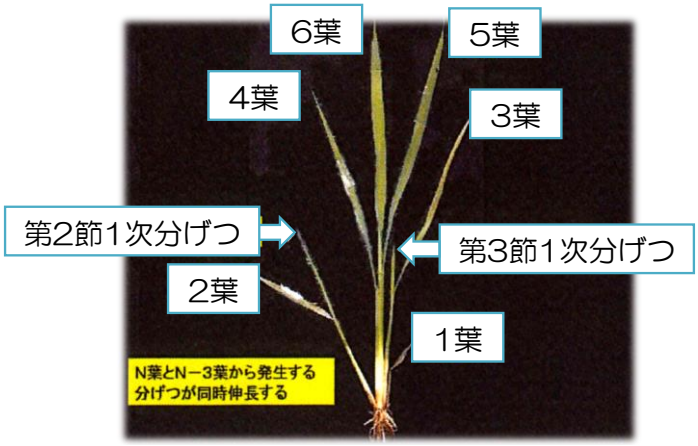


図 ５　分げつの発生（秋田県稲作指導指針より抜粋）

ちょっと一息…
スナップショット

好天に恵まれた
“サキホコレ”の田植え
（R5.5.19　JA 秋田おばこ管内）

大先輩に教えてもらいながら、
調査区を作ってます

今年も頑張りました！
「あきたecoらいす応援プロジェクト」の田植え
（R5.5.24　JA 秋田おばこ管内）

今年もおいしいお米が
できますように…

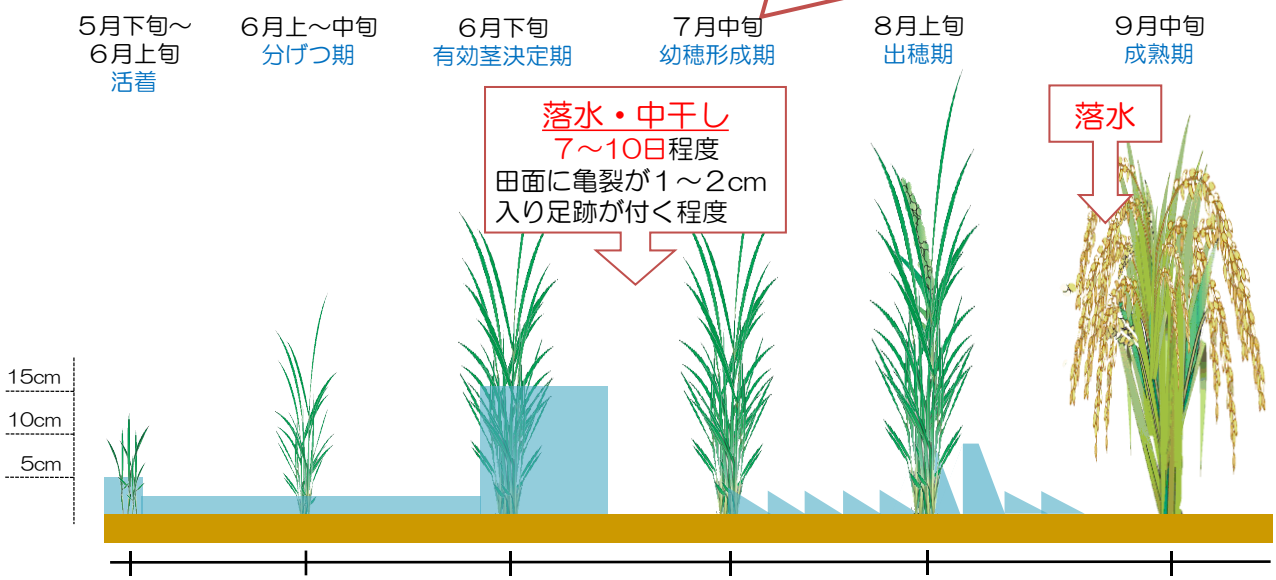
手植えは大変だけど、
頑張ってます！

3．今後の圃場管理

（1）水管理

- □ 6月中旬（分げつ期）：有効茎数を確保するため、浅水 or 飽水管理
- □ 6月下旬（有効茎決定期）：弱勢茎を抑制するため、深水管理
- □ 6月下旬～7月上旬：無効分げつの抑制のため、落水→中干し
- □ 7月中旬～8月上旬（幼穂形成期～出穂期）：飽水管理→出穂初めは間断かん水
- □ 8月中旬：飽水 or 間断かん水
- □ 9月上旬（成熟期）：落水管理、ただし出穂 30 日後頃とする

中干しは根の活力を高めて**1穂粒数と千粒重を増加させる効果**や、節間伸長を抑制し、**倒伏を軽減する効果**もあります！
※中干しと合わせて、溝切りを行うと、中干し以降の水管理を効率的に行うことができます



浅水or飽水管理

★水温と地温を高め、日気温較差を大きくし、分げつの発生を促進
→かん水時間は水温の低い早朝に短時間で！
※低水温の地帯：温水田、迂回水路、ポリチューブ等で積極的に水温上昇に努める

深水管理

★弱勢茎の発生を抑制
※あきたこまちで第6節1次分げつ（主稈葉齢：8.1～9.0葉期）が発生したら
※水深15cmが保てない圃場は中干しを開始

飽水管理

★出穂初めは間断かん水
※出穂後10日間、水深は5～6cm

□　異常還元（ワキ）が起きている圃場あり！

５月中旬の気温が高かった頃に田植えを行った圃場を中心に、異常還元（ワキ）が起きている圃場が散見されます。土壌の還元が強くなると、根に有害な硫化水素が発生し、根腐れの原因となり初期生育が停滞します。

今後も高温が予想されていますので、異常還元が起きている圃場や、還元が起きやすい圃場では、

① 短期間の落水、水の入れ替え

② 飽水管理（詳しくは「Za・あぐりふぉーむ Vol.39」参照）

などを行い、稲の生育への影響を低減しましょう！

図 ６　異常還元（ワキ）の様子

（２）雑草管理

□　残草が見られた場合は、草種に合わせた薬剤選定を行い、早めの追加防除を！

図４で示したとおり、今年は田植え前後の気温が平年並～高く推移し、日照時間も多かったことから、雑草の発生・生育が早くなっています。雑草の管理は早め早めが大切です！

表 ５　中後期剤ラインナップ

草種	オススメ薬剤
ノビエ	クリンチャー剤、ヒエクリーン剤、ヒエクッパ１キロ粒
ノビエ以外	バイスコープ１キロ粒、バサグラン剤
ノビエ・広葉	アトトリ剤、クリンチャーバスME液、ツイゲキ剤、レブラス剤

※剤によって対象草種の他、殺草限界葉齢・草丈が異なるので、ラベルをよく見て、早めに散布しましょう。

（３）斑点米カメムシ類対策

作況ニュース第３号（県　水田総合利用課、6/14 発行）によると、今年はアカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメともに発生が平年よりも 11 日早くなっています。斑点米カメムシ類の被害を防ぐには、適期に薬剤防除を行うだけでなく、水田内外の雑草管理も重要になります。

□　水田内にヒエ・ホタルイが残草している場合は、早めに追加防除を！

□　農道・畦畔等の草刈りは、適期に行いましょう！

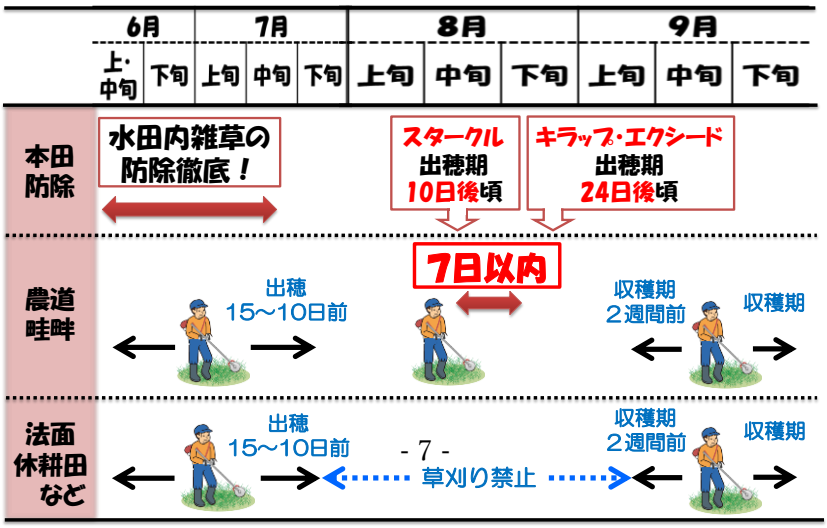


図 ７　カメムシ防除の時期と薬剤

昨年８月、県内は大雨に見舞われ、県北部を中心に各地で河川氾濫など、各地で大きな被害を受けました。被害にあわれた皆様には、改めてお見舞い申し上げます。

さて、今年は桜の開花が観測史上最早の４月４日（2021 年同一位、平年より 13 日早い）で、春先はもう夏が来るのかと思うような暑い日があったかと思えば、しまい込んだ毛布を引っ張り出さなければならないような寒い日が再来したりと、人間でも体調管理が難しい期間でした。稲も同じく、外は寒いのにハウス内は暑い！ということが続き、管理が難しかったと思います。田植え後も地域間差、圃場間差が大きく、圃場ごとに適切な管理が必要と状況となっています。

気象庁が発表した今後の３ヶ月予報（6/20）では、気温は平年並みと予想されています。しかしながら、地球温暖化により気温の平年値も高くなってきており、油断は大敵です。

変動する気候に合わせた、きめ細やかな管理をお願いします。

なべ

全国農業協同組合連合会　秋田県本部
〒010-8558　秋田市八橋南 2-10-16
ＵＲＬ：https://www.zennoh.or.jp/ak/

★次回の発行は 6/30 頃
資料の使用にあたっては、
米穀部の許可を得て下さい

ＪＡ全農あきた　米穀部
〒011-0901
秋田市寺内字神屋敷 295-53
ＴＥＬ：018-845-8500
ＦＡＸ：018-880-1572